

埼玉大学文化科学研究科修士課程学位論文・特定課題研究成果要旨

研究専攻（専門領域）		文化環境研究専攻		学籍番号	06CS026
氏名	秦 聡	ローマ字	QIN CONG	国籍	中国 (留学生)
修士学位 論文名 特定課題研究名	日本におけるパソコンの再利用・再資源に関する地理学的研究				
提出年月日	2008年1月10日		指導教員	山本 充	
体裁 (論文)			言語	日本語	
別冊添付資料等					
キーワード	PCリサイクル、バーゼル条約、中古市場				
<p>近年、パソコンの普及とともに、廃棄パソコンも一つテーマとして取り上げられている。パソコンの基盤には金や銀など貴重な金属含まれる一方、鉛など有害物質も含まれている。しかし、廃棄パソコンは産業廃棄物と一般廃棄物と異なり、複雑な仕組みと持つため、機械的、物理的に使用に耐えなくなった結果、買い替えや廃棄が問題になるのではなく、まだ使える状態のまま廃棄、買い替えなどが発生する。本研究は、このような廃棄パソコンの再資源化プロセスとその地理的特色を明らかにすることを目的としている。</p> <p>日本における廃棄パソコンの流動は大きく三つのルートにわかれていることが明らかとなった。一つは「資源有効利用促進法」に従って国によって設置された有限責任中間法人パソコン3R推進センターを通すルートである。パソコン3R推進センターでは、リユース段階で再利用状態にすることがなく、製品として転売される仕組みは存在しない。</p> <p>もう一つはメーカーによる廃棄パソコンの回収である。メーカーによる回収後、メンテナンスを施して中古パソコンとして国内で販売されることもあるが、最終的な回収がメーカーの義務であり、基本的に海外への流出がない。</p> <p>第三のルートは中古パソコンショップによる回収である。このような非メーカー系による廃棄パソコンの回収は全体廃棄パソコンの85%占めている。廃棄パソコンが回収された後、一部は国内で中古パソコンとして販売されており、もう一部は、輸出業者によって海外へ輸出され、後者のケースが多くを占めている。</p> <p>中古パソコンショップA社の協力を得て、第三のルートである廃棄PCの再商品化、そして流通などを明らかにした。廃棄パソコンが中古パソコンとして再商品化され販売されるプロセスをみると、回収者などによる中古販売向け処理(メンテナンス、クリーニングなど)を経て、再び国内市場で流通される。販売では、店頭販売とオークション販売とに分けられ、オークションによる購入者は全国に分布している。性能の低いパソコンや比較的人気のないパソコンは、日本国内で販売できない場合が多く、外国人購入者により海外に流出されるケースが多く見られる。海外向けの輸出では、日本に比べて一時期前のCPUでも商品価値があるのが特徴で、従来からの中国、東南アジアに加えて、東欧、ロシア、アフリカなどにも輸出が広がっている。中国では、バーゼル条約で廃棄パソコンの輸入は厳しく規制されているが、闇のルートが存在しているため、廃棄パソコンの不法輸入は絶え間なく存在している。</p> <p>パソコンリサイクル法に従うならば、通常では性能のかなり低いPCや明らかに廃棄品と思われる廃棄PCは、製造業者に依頼され回収されるはずだが、実際には、異なるルートで国内外へ流通し、法と実態との乖離が明白である。</p>					